

令和元年度 第2回那須地域定住自立圏共生ビジョン懇談会 意見交換（要旨）

開催日時 令和元年10月3日（木） 午後1時30分から午後3時10分まで

開催場所 那須塩原市役所 本庁舎 3階 303会議室

出席委員 5名

欠席委員 6名

那須塩原市 企画部長

事務局 那須塩原市 企画部企画政策課 4名

構成市町 大田原市 政策推進課 2名

那須町 企画財政課 1名

那珂川町 企画政策課 1名

傍聴者 なし

1 開 会

2 あいさつ（山島会長）

本日は、現在の共生ビジョンの変更案と、第2次ビジョンについてということで、出席状況は良くないですが、よろしくお願いいたします。

3 内 容

(1) 那須地域定住自立圏共生ビジョンの改定について

（事務局より説明）

【質疑応答】

委員： 有害鳥獣等対策事業について、今、豚コレラが猛威を振っており、埼玉まで入った。那珂川町はジビエ料理で野生いのししを捕獲して提供している。今まで順調であったが、今後どのような影響が出てくるかわからない。野生いのししに対する豚コレラの防疫体制について一丸となって取り組む必要があると思う。

会長： 有害鳥獣に関する話は、現在、県の環境基本計画の改定に関する検討をしているが、そこでも色んな議論がある。県全体の議論になる。この問題はどのように進めていくべきか難しい。豚コレラは人が食べても大丈夫であり、人に感染することはないが。

委員： 風評被害で、豚コレラのあるいのししは食べたくない人がいるかもしれない。

会長： 県の環境基本計画で鳥獣のことも入っているので議論されると思う。
他にはいかがか。

委員： 農観商工連携があるが、那須町の2つの道の駅の話を知ると、農業従事者が非常に少ない、高齢化により減っていて農作物が出てこないということで、特に東山道は売上が減っている。友愛の森についても天候等の影響で減っている。ずっと成績が良かったがここに来て少し良くないということである。連携というと、我々が提案しても農家の方は後継者がいなくて難しい、地場産品だけではやっていけないという話も聞く。東山道について、近隣の道の駅と交流をはかり、お互いにやり繰りしているという話は聞く。

委員： 那須塩原駅東口のバリアフリー化、エレベータ設置により、今まで以上に東口の利用客が増えると思う。西口は駐車場が舗装され、自動化されており、安全上良いが、東口は駅に近い駐車場はほとんどが砂利である。簡単に砂利をすいた所だと、雨が降ると土が泥水になる。本格的な砕石転圧ではないから。できれば東口活性化対策か何かで簡易舗装等してくれると、もっと東口の利用客が増えると思う。

会長： 那須塩原駅は圏域全体の中心であり、観光の窓口以外にも、市町が一緒になってやるものをあの辺りには作れる。西口駅前には駐車場が多いが、東口の方に持っていけると西口を違う用途に使える。東口にどれくらい余地があるかである。

委員： 西口は黙っていてもより充実した活性化に利用できると思う。国道と東口駅前の辺りが急激に過疎化するのではないかと思う。

那須塩原市： 現況として、東口の元々の商店街は既に体をなしてない。ただ、利用としては大田原市営バスや国際医療福祉大のバスなど、朝夕の利用は非常に多い。その割には駅広場が貧弱だと思っていると思う。新聞などにも出ているが、渡辺市長のいの一番の仕事として、西口東口という括りではなく駅周辺をどういう形にする

かということで、今月から専門家会議を立ち上げる予定である。一つ方向性を出したいと思うが、その辺も考慮したいと思う。位置づけとしては、やはり那須塩原市としてどうするというのではなく、栃木県北として玄関口になる駅なので、そういう視点も、一度地元ではなく外の眼で見てもらおうということで立ち上げる。

会 長： 圏域全体として考えて欲しい。新幹線が停まるのは1箇所なので、そこを活かしてほしい。

会 長： こちら（変更案）については、実績ということによろしいか。

一 同： 了承。

(2) 第2次那須地域定住自立圏共生ビジョン（案）について

（事務局より説明）

【質疑応答】

会 長： 今回は新しい事業が少し加わったということと、今までの内容に加えて進化させたということだが、いかがか。

委 員： 再生可能エネルギー適正利用推進事業の中で、指導とあるが、指導できるのか。

会 長： きちんと維持管理できているか、適正に管理しているかという指導だろう。太陽光はこれからまだ増えるのか。

委 員： 2023年までは系統整備ということで止まっているが、2023年に多く入る。

会 長： 先日、県の環境審議会で50ヘクタール以上はアセスの対象にした。いくつか出てくると聞いている。

委 員： かなり前に連系の話があったもので、東京電力の系統が整備するまで待つよう依頼したものが出てくる。2023年に系統整備が終わるので、来年くらいから始めるのではないかと思う。

委員：この前の台風で湖の上のものが発火していたが、山林だと延焼するのではないか。

会長：県全体だと林地開発がほとんどである。大半が太陽光である。

委員：太陽光のパネルはパネル自体が発電しているので、触ると非常に危ない。

会長：見て、ひどい物は指導していくということだろう。それ以上はできないと思う。アセスの方でも、やらなくなったらどうするのかという議論は出たが、アセスは環境上問題があるかどうかのチェックだけなので、後のフォローは中々難しい。一応そういうものもどうやるかを判断して出そうということで、これからアセスの基準を設置しないとイケない。パトロールもだが、通報があったら受けるところを作るとか、連絡できる場所があると良いかもしれない。

会長：アートの話だが、黒磯駅前に図書館もできるし、ずいぶん良くなると思う。那須は色んなアートがあるので、「那須」というイメージがアートとつながると良い。例えば毎年10月はアートフェスティバルの時期であるなど、共同で宣伝していくと良い。普段開館しているところにも何か足して、那須地域全体でやっているというのができると良い。圏域を上手くまとめPRすると良いと思う。ぜひ来年から検討する時にそういう検討をしていただきたい。

委員：目指すところは、外部の方々も安心して定住できるような環境整備をするということだと思うが、全般的にきちんと整理されているが、「これだ」というインパクトが弱いと思う。アートにしても他の事業にしても那須山麓地域の連携は非常に大切であるというのは皆さんの共通の認識であると思うが、そこで何か、那須山麓として、大きな成果につながるようなご意見がもう少し皆さんから積極的に出されるといいなと思う。いずれにしても地域で連携するというのは、情報交換、収集、発信ということだが、聞いたところによると、最近ではデジタルテクノロジー、いよいよ5Gということで、日本全体、世界を覆うものは時間がかかるが、ローカル5G、那須山麓地域を網羅するようなローカル5Gには民間参入できる、

そのことが雇用につながる、そして今まで地元になかった産業の一つに育つのではないかと感じた。的をしぼってやると良いのではないか。そのことが、公共事業、民間事業に役立つと良いと思う。

会 長 : 連携するというのは、どこかの市町だけというのではなく、地域でイメージを良くするという意味である。どんどん色んなものが進んできているので、新しいものを活用していくと、よりつながりやすくなるのかなと思う。

大田原市 : 今回、移住・定住サポート事業を提案させていただいた。国や県の考える移住定住と市町が考えるやり方とはどうしても違いや温度差がある。そういった時に、市町村ごとにやるのではなく、那須塩原駅が県北の窓口と言っているように、那須地区として、那須地区に来て下さいというような移住定住の事業を展開した方が良いのではないかとということで提案させていただいた。各市町のサポートセンターを集約する形で、那須地区にお客様を呼べるような体制を定住自立圏でやれたらと思っている。

会 長 : 栃木市が頑張っている。

大田原市 : 東京からの距離が近いこともあったり、補助金を整備したり色んなことに取り組んでいると思う。

会 長 : 栃木市だと東京からすっと思った感じだが、ここは違う所に来た感じがする。

大田原市 : 那須というのは、栃木県の中でいえば日光にも対抗できる場所なので、観光地に住みたいのであれば那須町があるし、住んで東京に通いたいのであれば那須塩原市、静かなところであれば、大田原市や那珂川町があるので、那須地区に来ていただけるような取組をしたい。

委 員 : 観光局にいると、移住定住の窓口があるかという問合せがこのところ時々ある。町の定住課があるのでそちらを紹介しているが、エリアとしては情報がまとまっていないし、不足している。それから、学校も大事である。高校をなくすと

駅もさびれるのではないかと思う。交通の便も段々だめになるだろうし。

会 長： 就学時期の子供に来てもらえるような対策など、皆で頑張るしかないだろう。

委 員： 先ほど太陽光発電の話があったが、国道 461 号沿いの耕作放棄地について、太陽光の営業がある。自然が豊かな所に急にぽっとできた所がある。耐用年数 20 年というが、費用対効果で元を取ったら後はどうするのか心配である。那珂川町の高倉山は山のとっぺんがピラミッドのように光っている所がある。鉄砲水が出ると、あの下には小砂地区がある。下は日本で最も美しい村連合に入っているが、上を見ると太陽光パネルが光っている。景観形成ではなく、破壊しているが、地元は反対運動も何もできない。鉄砲水の時に、下は大変だった。集中的な鉄砲水はここ 10 年間で 1 回だが、大規模なものが発生したらどうしようと地元では不安がっている。環境対策、保全対策をこの地域として、首長さんたちにも真剣に話題にしてほしい。

会 長： 県の規定では 5 ヘクタール以上の開発の場合には自然環境保全の協定を結んでやるということになっている。これからやるものについては、5 ヘクタールを超えるものは協定である。林地で 20 ヘクタールを超えるものはアセスの対象になる。3 月の条例改正の予定である。環境については県全体でできることは少しずつ取り組んでいる。

那珂川町： 太陽光については町としても状況はわかっており、土砂が流れることも確認している。当時は拒否する手段がなく、許可せざるを得なくてできてしまったこともあるので、今後はそういうことがなければと思う。開発と環境保全のバランスは難しいが、路線が変わる方向にできればと思う。

那須町： 10 月から太陽光の条例が施行された。5 ヘクタールより小さな規模であっても届出し、協議することとした。

那須塩原市： せっかく定住自立圏に取り組んでいるので、今、それぞれの市町という単位で仕事に取り組んでいるが、イメージとしては、物を考える時には垣根はなく、自分

の所ではどうするのかという発想が必要だということを、もう少し大きく見ようということ、那須塩原市では話をしている。そういう動きをすることで全体の那須ブランド、地域ブランドが確立されてくる。地域ブランドが高まることによって、農産物の価格であったり、移住定住の魅力であったり、そういったものが上がっていくと考えるので、引き続きビジョンにしっかり取り組んでいければと思っている。

会 長： 定住自立圏共生ビジョンは那須地域全体をまとめていく手段だということ。

委 員： 本日欠席者が多く少し残念であった。新しい第2次の案が示されたわけだが、ぜひ皆さまの積極的なご意見等をいただき、更にこれに肉付けし、この懇談会に出るのが楽しみだというような懇談会になればと思う。

4 その他

○ 事務局

次回の懇談会については、来年度を予定しております。来年度につきましても引き続き、どうぞよろしくお願い申し上げます。

5 閉 会（午後3時10分）